

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4 → 6 ・ 4 5 通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

本号は、はからずも、福島ニュースをお届けすることになりました。最初の記事は、昨年のクリスマスにいわき教会が主催したオルガンコンサートです。震災以来、津波被害を受けたいわき市民の方々を対象に、「お茶っこサロン」を継続。そのために、毎年恒例となっていた「クリスマス・オルガンコンサート」を開催することができませんでした。5年たって、やっと再開できました。そのときの模様と、檜葉町に修道院を開設した聖母訪問会の4人のシスターからお話を聞きました。その様子をご紹介します。被災地ツアーのお申し込みの締め切り日が変更になりましたので、そのお知らせも最後に載せております。ぜひご覧ください。

5年ぶりのクリスマス・オルガンコンサート

カトリックいわき教会 チーム平・堂根 佐々木三代子

クリスマスも間近に迫った2015年12月23日、カトリックいわき教会聖堂に、福島県南相馬市原町ご出身のオルガニスト青田絹江さんをお迎えして、「いわき教会クリスマス・オルガンコンサート」を開催いたしました。

客席には、多少緊張した面持ちの被災者の方々もお越しくださいました。東日本大震災以来の日々は、長かったような、いや短くも思えた無我夢中の日々でした。今回5年ぶりの演奏会を開くことができました。

大震災までは、恒例となっていた「いわき教会オルガンコンサート」ですが、これはそもそも、私たちカトリック教会から、いわき市民の皆さまへのクリスマスプレゼントの意を込めて、始められたものでした。

大震災の前年、2010年には、エキュメニカルな活動で親しい日本聖公会の司祭様のご紹介により、その東北教区主教夫人の加藤晶子さんをオルガニストにお招きいたしました。この演奏会では、どなたにもなじみやすい曲のプログラムであったせいででしょうか、にわかに補助イスを出して客席を準備しなければならず、230余名の方がご来場くださり、私たちにとって、望外の喜びとなりました。

思い出しますに、2011年、いわき市中央台の仮設住宅群訪問を続けておりました師走のこと、ご支援いただいている岡山の幼稚園からアッと驚く愛らしい子どもたちの手作りのクリスマスツリーが届きました。



早速、みぞれ混じる冷たい日に、このツリーを持ち、訪問した最初のお宅は、豊間の津波被災を受けたまだ若いお母様でした。玄関口に立つ私に、お話くださったことには、「両親と主人、せっかくの新築の家まで津波に流され、仕事もなくなっちゃいました。これから、子どもとどうやって生きていったらよいか……」一気に話されると、あふれ出る涙に両手で顔を覆われ、しゃがみ込んでしまわれました。とっさに、お慰めする言葉を見いだせないまま、子どもたちからのプレゼントを手渡しますと、涙にくれたお顔に笑顔が浮かび、子どもが学校から帰ったらどんなに喜ぶかと……。やっと、お顔を上げられました。それは、無垢の子どもたちの懸命な気持ちが、被災して打ちひしがれたこのお母様の胸を打った瞬間でもありました。

その翌年の年初めから、私たちチーム平・堂根は、いわき市最大の被災者住宅となった高層アパート形式の内郷雇用促進住宅に、ボランティア先が変わり、ミニ体育館さながらの大きな集会所でサロン活動を続けるうちに、被災者の方々とクリスマスを祝ってきました。

各地区の復興住宅の完成とともに、地元に戻られた方々へのサロン活動は継続しておりますが、いよいよ大震災後、5年目を迎えようとしている時、教会の年間行事予定を企画する段階で、ぜひコンサートを再開したいとの思いが強くなってきました。しかし、支援活動を続け、他の教会行事も行いながらのことですから、準備万端整えて、というわけにはいかず、やや不本意ながら、当日を迎えました。地元新聞社も2社、取材してくださいましたが、そのポイントは「5年目のクリスマス」にありました。

青田さんにお任せしてのプログラムは、格調高く、特に聖堂内に響き渡ったバッハの「トッカータとフーガニ短調」は、教会でのオルガン演奏に初めての方にも訴え、ある方は「感動に鳥肌がたちました」とおっしゃり、他の方々は、目に涙を浮かべ、聖堂内の皆さまとごいっしょに豊かな時間が過ごせてのではないかと思います。

この演奏会に寄せての最初の願い、被災者の皆さまのお心をいくらかでもいやし、あるいは、慰めの一時（ひととき）となってほしいとの想いを、神様はお聞き届けてくださったと、この大震災以来5年ぶりのオルガンコンサートを感謝の内に終えたのでした。



聖母訪問会 福島県檜葉町に修道院設立

神が、私たちに望んでおられることをしたい

仙台教区サポートセンター 長谷川 昌子

聖母訪問会の精神は、「聖母マリアが年老いた親戚のエリザベトの懐妊を知り、急いで山里を旅して、手助けしたように、必要とされる所に行き奉仕する」というものです。

2015年に創立100周年を迎えた同会は、東日本大震災の被災地にいち早く駆けつけ、2011年12月、カリタス米川ベースの側に共同体を開きました。そこに、常時3人のシスターたちが、緊急支援、復興活動のために2014年3月までの間、米川ベースでの協力、お茶っこ、傾聴、漁業支援のために尽力し、時には、ボランティアの方々への宿泊所としても共同体の家を解放しました。さらに、特記すべきことは、滞日外国人、特に、フィリピンの方々へのサポートの面でも活躍してくださりました。

その後、聖母訪問会は、福島デスクでの奉仕に引き続き、福島原発近くに修道院を開きたいという意向で、住居を探しつづけ、2015年10月、福島県双葉郡檜葉町にふさわしい住居を借りることができ、翌11月1日、「檜葉修道院」を開設し、院長であるシスター藤原を含む4人のシスターが派遣されました。



檜葉修道院の門の前にて
（左からシスター松下、
シスター松坂、
シスター藤原、
シスター山口

シスター藤原は、米川のときから、ずっと被災地から離れずに奉仕してくださっています。シスター松坂は、2011年11月頃から2013年1月まで石巻ベースでスタッフとして活躍してくださっていた方です。シスター山口は、シスターズリレーで、1月間、ボランティアとして来る人々の食事の世話など、ベースのお母さん役として皆さんに喜ばれた方です。

修道院を開設した檜葉町は、福島第一原子力発電所事故により、2011年3月12日から、全ての町民が避難を余儀なくされた町です。それが、2012年8月10日、避難指示解除準備区域^{※1}となり、昨2015年9月5日、避難指示解除が宣言されました。これは、南相馬市小高区の避難指示が解除されたのに引き続き、5番目のエリアとして、檜葉の避難指示が解除されたものです。

しかし、2015年10月21日現在、檜葉町住民で帰還した方は、全町民の約3%にすぎない321人。そんな中、この4人のシスターは、11月1日、住民票を移し、檜葉町民となりました。「私たちは、この日を檜葉修道院開設の日、としています」、とシスターたち。

住民票の手続きに行った際、役場の人たちも檜葉町に帰還した人は少なく、「私は、子どもが小さいものですから、いわき市に住んでいます。そこから通っています」という方もおられ、シスターたちが「住民票の手続きをしたい」と言うと、皆さん驚いた顔をなさっていたそうです。

※1 避難指示解除準備区域・・・放射線の年間積算線量が20ミリシーベルト以下となることが確実であると確認され、復旧・復興のための支援策を迅速に実施し、住民の方が帰還できるための環境整備を目指す区域。立入及び事業活動は可能だが、宿泊は原則禁止となっている。

「この家を見つけるまでは、大変でした。私たちも、こんなに早くいい家が見つかって驚いているんですよ」、「原発の近くに身を置きながら、住民の方々の痛みを感じながら、祈りで癒していきたい、共に住んでいきたい、というのが私たちの願いでした」と話されるシスターたち。

住居を探す際、いわき教会の信者さんに声をかけ、「福島原発の近くに住みたいと思っています。家を探しているの、知っている方などがいたらよろしく」と頼んでいました。その後、いくつか紹介していただき、4人でどのような場所なのか見に出かけました。三春町や広野町にも足を運びましたが、でも、ここは、私たちの住む家ではない、と感じました。

そうこうしているとき、檜葉町にお知り合いの方がいるということで、3軒のお宅を紹介してくださる方が現れ、3軒全てのお宅を見に参りました。みな立派なお宅で、お借りすることになったこの家より広かったのですが、やはり、ここではない、と感じ、この家を見たときは、4人とも、ここだ、と感じました。

その後、家の持ち主の方が、快く貸してくださることになり、家具などもそのまま使ってくださいと置いていかれたので、大変助かりました。ただ、借りることを決めてからは、家の修理が必要でした。突然の避難命令で、取るものもとらず、出ていかなければならなかった状態のまま、4年以上もの月日が経過した家は、すぐに住めるものではなかったのです。修理を頼もうとしましたが、大工さんや工事をしてくださる人もみんな原発の方で働いているため、人手不足でした。しかし、幸いなことに、この家を建ててくださった方が、この地域の大地主さんで、皆さんからよく知られ、尊敬されている方だったため、あの方が声をかけてくださった人なら大丈夫とばかりに、すぐに大工さんも他の人も来てくださることになり、12月8日には、いわき教会のチェスワフ神父様から、家の祝別をしていただくことができました。その時、湯本教会の信徒の方々ほぼ全員が来てくださったのは、大変うれしいことでした。



ここは、JR常磐線の竜田駅や役場にも近く、小さなスーパーもあり、内科と整形外科のクリニックも開かれたので、非常に恵まれたところです。

よく聞かれる質問は、「ここで、何をしたいの」と言われるのですが、「ここには、人が住んでいない家がたくさんあります。そこに住んでいらっしゃった人々が、今ここにはいらっしゃらないということの痛みを感じながら、癒していきたいと思っています。」「また、土との和解も考えています。土は命を育むものです。地主さんから畑を借りましたので、春から徐々にEM菌を入れながら土を元気にしていき、野菜などを作っていきたいと計画しています。」

しかし、シスターたちは、すでに活躍を始めておられます。いわき市にあるさいたま教区のサポートステーション「もみの木」は、檜葉の方々が住んでおられる仮設住宅でお茶っこをしています。そこへ月2～3度ボランティアとして入り、檜葉の方々と交わり、人間関係を築いているのです。また、役場に行った時「^{※2}ならば応援団」があり、そこに「^{※3}なにかし隊」というセクションがあったので、そこに申込みをしてきたので、声がかかれば、すぐ、檜葉の皆さんと活動する体制を整えておられます。

※2 「ならば応援団」…一般社団法人ならばみらいが、2015年3月から町民と町外の方が共に協力をして町の復興を目指すため、「ならば応援団」の募集をしています。

※3 「なにかし隊」…「ならば応援団」の中の一つの組織。「なにかし隊」は、ふるさと檜葉町のために「何かしたい」意欲をもった町民が集まり、町の復興に向けて自分たちが出来ることを話し合っ、仲間とワイワイ行動を起こしていくことを目指した、檜葉町民主体の組織となっています。

お散歩しながら、出会った人とお話しし、お茶にさそうと皆さん、よく来てくださいます。誰にでも喜ばれるように修道院の一階をオープンにしています。

竜田駅の駅員さんにも「行ってらっしゃい」「行ってまいります」「ただいま」「お帰りなさい」の挨拶を毎日かわすようになりました。少しずつ町内の人になりつつあります。

このように、話して下さった4人のシスターたちは、生き生きとしておられ、「楽しくて、うれしくてしょうがない」という雰囲気伝わってくる魅力的な共同体でした。これからの活躍を期待してお別れいたしました。



《被災地ツアーお申し込み締め切り日変更のお知らせ》

2016年3月～9月の被災地ツアー「被災地は今！」のお申し込みについて、締めきり日が変更となりましたので、お知らせいたします。また、2月23日（火）から5月分のお申し込みが開始となります。皆様のお申し込みをお待ちしております。

※4月分は定員に達しましたので、締め切らせていただきました。

（申込み締めきりは実施の2週間前となっていますが、定員に達し次第締め切らせていただきます。）

○Aコース(宮城・岩手) *コース内容は、変更となる場合がございます。

仙台集合～亘理町～山元町～石巻市～南三陸町(米川ベース～岩手県大船渡市～釜石市～大槌町～宮古市～盛岡駅経由・仙台着

《Aコース実施予定の日程》

◇5月23日（月）～25日（水）

受付開始日：2月23日(火)

締めきり：5月9日(月)

◇7月26日（火）～28日（木）

受付開始日：4月26日(火)

締めきり：7月12日(火)

○Bコース(福島・宮城) *コース内容は、変更となる場合がございます。

仙台集合～亘理町～山元町～石巻市～南三陸町(米川ベース)～福島県南相馬市～富岡町～大熊町～楡葉町～いわき市～郡山駅経由・仙台着

《Bコース実施予定の日程》

◇6月28日（火）～30日（木）

受付開始日：3月28日(月)

締めきり：6月14日(火)

◇9月12日（月）～14日（水）

受付開始日：6月12日(土)

締めきり：8月29日(月)

お申し込み方法など詳細は、インターネットから「仙台教区サポートセンター活動日記」をご覧ください。
*インターネットをご利用いただけない場合は、仙台教区サポートセンターまで、お気軽にお問い合わせください。FAX等で、詳細をお送りさせていただきます。

《東北復興応援カレンダーのお知らせ》

東日本大震災発生からもうすぐ丸5年を迎えようとしております。ボランティア参加数や活動するグループが、年々減少しておりますが、「東北復興応援カレンダー 2016年3月～2017年3月」によって、東日本大震災の被災地へ引き続き関心を持ち続けていただきたいと思います。願っております。

カレンダーの在庫はまだございますので、ご希望の際は、お申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールで仙台教区サポートセンターまでご連絡ください。FAXやメールをお持ちでない場合は、お電話で対応させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。

※ご注文は5部以上、1部300円以上のご寄付をお願いします。

お寄せいただいた寄付金は、カリタスジャパンを通して、東日本大震災の復興支援活動のために使われます。

《被災地ツアー・復興応援カレンダー お問い合わせ・お申込み先》

仙台教区サポートセンター

FAX：022-797-6648、TEL:022-797-6643

Eメール：sendaidsc@gmail.com